

日に新たに そして日々に新たに!



まこと
「苟に日に新たにせば
日々新た、また日々新たならん」
(中国の古典「大学」より)

子ども達に
明るい
未来を!

明日への バトンタッチ



元気に遊ぶ子どもたち(可児川の河川敷にて)

目次

- 迎春のかがやき ①
 - 皆様の「そばにある人権活動」を——本センター会長 杉山 桂
- 特集「人権文化の光彩」と「(23年度)本センター重大ニュース」..... ②～③
 - 平成23年度(第10回)人権啓発入賞「標語・300字小説」
 - 〈解説〉・**応募者総数**:1,735人(小学生1,139人・中高一般596人)
 - ・〈最多応募校〉・今渡南小学校(180点)・中部中学校(297点)
 - ・入賞作品 標語40点 300字小説8点
- コーナー ④
 - ある日その時 ●可児ぬくもりネットだより
 - ぬくもり・まゆちゃん®

「人権教育・研修」国連宣言が採択される!

(平成23年12月19日
第66回国連総会にて)

今年の人権・ホットメモリー

＝国の実現責任・公務員の研修と教育に関する人々の役割などを挙げている。＝

迎春のかがやき

皆様の「そばにある人権活動」を 本センター会長 杉山 桂

新春を迎え、希望の年へスタートされたことと思います。

龍が滝を登るごとく、力強くあらゆることが良い方向に向いてくれることを祈るばかりです。

本センターも設立20周年を終えいよいよ今年までも増して、市民の皆様の「そばにある人権活動」のあり

かたを考えながら、推進してまいりたいと思います。

さらに心豊かな安らぎのあるまちになるよう、皆様のご支援ご協力をお願いします。



人権文化の光彩 平成二十三年

・人権啓発入賞「標語」

〔選考・関係者その他機関の代表による〕

1,565作品
より選考

【最優秀賞】

根っこから みんなでぬこう

いじめの木

小野健斗(中学校一年生)

【優秀賞】

やめようと言えぬ勇気が

いじめをなくす

藤本明歩(小学校六年生)

つくろうよ いじめがゼロの

学校を

間宮 輝(小学校六年生)

仲間でしょ 見てみぬふりは

悲しいよ

福島帆乃香(小学校六年生)

悪口は イジメノ前兆 黄信号

丹野寛代(中学校一年生)

ゲームじゃない！ リセットできない

その命

野田流星(中学校一年生)

【入選】

気になるよ 君の笑顔が 消えたとき

上田和幸(小学校六年生)

「あやまる」勇気 「ゆるす」勇気 二つの勇気を忘れない

可児祐大(小学校六年生)

目指そうよ 人の気持ち 分かる人

宮本凌弥(小学校六年生)

いじめとは くすりで治らぬ 深いきず

柴田 匠(中学校一年生)

いじめはね 立派な犯罪 やめようよ

國枝大聖(中学校一年生)

考えて 軽い一言 その重さ

宮島百香(中学校一年生)

親ならば 子どもの泣き顔 よく見てよ

沖本玲奈(中学校一年生)

一人から みんなに広げられ おもしろ

可児文卓(小学校五年生)

今なくそう 自分が止めなきゃ いじめは続く

前澤早紀(小学校六年生)

やめようね じぶんがされて いやなこと

小林 愛(小学校一年生)

いじめから 生まれる物は 何もない

吉田偉月(小学校六年生)

助けてあげて 助けてもらい 人は支え合いながら 生きていく

太田峻介(小学校六年生)

ぬくもりは いじめを無くす 第1歩

秋山大輔(中学校一年生)

思いやる 心がある人 すてきな

桑下凌洋斗(小学校五年生)

勇気だし 一人ぼっちに 声かけよう

表田健臣(小学校六年生)

やさしさが いじめをなくす 第1歩

長谷川雪音(小学校六年生)

何度でも 言われてうれしい ありがとう

細田紗那華(小学校六年生)

そのことは 自分が言われて いやじゃない？

東 夢羽(小学校四年生)

見逃すな どんなに小さな いじめでも

佐藤正都(小学校六年生)

一言が 心傷つける 何年も

内村はるか(小学校六年生)

何気ない 言葉態度が 傷つける

長谷川唯奈(小学校六年生)

さしのべよう いじめる人に とめる手を

神谷恵理(小学校六年生)

自分がやられていやな事 ひとにやるのはダメな事

山田拓己(小学校六年生)

ぼくたちの 命の重み 同じだよ

竹本亮太(小学校六年生)

よびおこせ 心の中の ぬくもりを

古山優奈(中学校一年生)

まもろうね 一つだけある だいじな命

長谷川雄人(小学校五年生)

どの子もみんな かけがえない だいじなひとり

林原春奈(小学校六年生)

いじめられ 体の傷は治っても 心の傷は治らない

野田 樹(小学校六年生)

だめだよ!! あなたの心のゆれつき 勇気を出して一言を

武田あやの(小学校六年生)

変えていこう いじめに対する みんなの意識

村田夢乃(中学校三年生)

いじめゼロ 差別もゼロは 気持ちいい

浅野琴音(小学校六年生)

やさしさを 心かにじ色 かがやくよ

辻 歩(小学校六年生)

いじめていい そんな権利は だれにもない

山本絢音(小学校六年生)

つらいのは 見えるきずより 見えぬきず

足立有咲(小学校六年生)



(23年度)本センター重大ニュース(実績)



12/4

本センター
設立20周年企画

ぬくもり講演会
・講師:「水谷修氏」
・人権アピール採択



9/30

「子どもいじめ
対策提言書」を
富田市長へ提出



6/26

支援「ぬくもり
グループ」募集

「可児こプロジェクト」
を選任・企画「ひろがれ
弁当の日シンポジウ
ム・イン可児」アールにて



6/1

人権本巡回制度
「3周年記念」

・(市)図書館後援



・新ブック・カード作成

4/1

本センター
「人権だより」創刊
(機関紙「ぬくもり」の間に適宜発行)

6/1

「本センター紹介パンフ」
改定版発行



(人権だより)

(センターパンフ)

・人権啓発入賞

【300字小説】

〔選者・渡辺マサ氏〕

170作品
より選考

【最優秀賞】

佐藤那奈（中学校三年生）

その国の国王には息子が一人だけいた。国王は当然その子が次の国王になると信じて、小さい時から大金をかけて教育をした。ところがその子は十五才の時、突然「パン屋になって、人々を幸せにしたい。」と言いました。国王は怒って「お前が国を継がなければ、国がつぶれてしまう。」と許さなかった。とうとう息子は国王と絶縁し自分の夢だったパン屋になった。ある時、隣の国と争いになり戦争が始まった。しかしパン屋になった息子は戦争には行かず毎日パンを焼き、敵国の兵士達にも配り続けた。敵国は感動し、やがて戦争は終わった。パン屋になった息子は国王に言った。

「力だけでは国を守ることはできないよ。」

【優秀賞】

上野佳奈（中学校三年生）

ある朝の電車の中。私と娘は旅行だが、多くの通勤や通学の人々で混雑していた。ふと私の視界に入ってきたのは、一極目立つ人。そう、黒人の女性だ。目をそらしていると、「ママ、あの入真つ黒だよ。」隣にいた娘が突然口にした。「こら、杏。言っじゃありませんよ。」すぐに注意をするが、まわりの視線が痛い。私はゆつくりとふり向き、彼女に深々と頭を下げ、何度も謝る。すると驚いたことに、「気にしないで下さい。」彼女はにっこりと笑って言う。肌の色とは全く違い、やさしい桃色の心を持っているのだと知った。偏見を持つような黒い心の私よりもずっと明るく前向きに生きていると思った。

【優秀賞】

殿垣雄介（中学校一年生）

「おまえには関係ないよ。」話の途中でさりげなくいわれたかずやは、心のどこかが角砂糖一つ分痛んだ。かずやは、小学校五年生で最近友達とうまく話していない。この後も、人が遠ざかるような事をされていた。そのたびに角砂糖一つ分ずつ心は痛んだ。そんな中、離れた所から見ている人がいた。「どうしよう。」前からかずやと友達だったりょうだ。りょうは、最近かずやと話していない。かずやと同じようにいじめられたくなかったからだ。ただ、目のうるんだ顔をみたりようは、思い切って声をかけた。

「おい、かずや。」

かずやの心に光が差し込んだ。角砂糖一つ分。

【入選】

阪野 珠（中学校一年生）

「アプ子っおいつ。」今日も聞こえる。ちよっとふつくらした少女が大勢にたかられている。そう、これは「いじめ」だ。私はうずうずしてきただ。一人の子に大勢でたかるなんて。私は、もうがまんができなくなって、少女をかばった。「もうやめてよ。この子が何をしたらって言うの。」やっと言えた。大勢の集団は、ちつと舌打ちして帰っていった。「大丈夫。私は、ふり返ると少女にきいた。」「うっうん。ほっとした。言ってよかったと思っただ。」「あつあの…。ありがとう。」「少女の言葉を聞いた瞬間、胸が熱くなった。なんだ、簡単なんだ。私が止めればいいんだ。いじめを…。そして私は誓った。これからは、私が止めていくことと…。」

【入選】

池田彩菜（中学校三年生）

晴れた青い空が灰色のように見える。その原因は、今日のクラスタイルの時だった。

僕のクラス二年四組は、体育大会のリレーを決めていた。男子リーダーを決める時、一人の子が名のり出た。その子は、いじめをうけている米田という子だ。その瞬間から反対の声が湧き上がった。

「米田なんかやったら負ける。」「米田がやるぐらいだったらおれがやる。」「そんなことを言われても怒りもせず泣きもせず、ずっと耐えていた。そしてC.Tも終りトイレに行く米田が泣きながら「何で僕だけ…。」と言っていた。

米田のその言葉と涙を見てから悔やんだ。何であの時僕は止めなかったんだらうと…。

【入選】

今井 翔（中学校三年生）

もう手遅れだ。ここまでできてしまっただけ、いじめとはそんなものだ。助けたくても助けられない。分かっているけど何もできない。ただ、時だけが流れていく。そして、今も。

今から三ヶ月前、僕のクラスに転入生、A君が来た。A君はおもしろいしゃべり方だったため、すごいスピードで、クラスになじんだ。ところが、A君は少し調子にのってしまっただけがあった。そこからいじめは始まった。「あいつ、しゃべり方きもくね。」「オレも思う。」「そつ、彼の最大の名物、しゃべり方がからかわれ始めた。僕は、何となくいじめの雰囲気は感じていたが何もできなかった。

今のいじめは、僕にも責任がある。だから、明日はいいつを助けよう。絶対に…。

【入選】

渡邊優美（中学校三年生）

「手伝てくたててありがとう。」「私はこの言葉を言われてとてもうれしかった。私は、忙しそうに働く友達を無視して横でずっと遊んでいた。」「手伝おうかな?」と思っても「遊ぼう。」「と言われると、楽しい方へ行ってしまう。どうしても「手伝おうか?」この一言が出な

かった。

ある日、委員の仕事、学級の仕事と、たくさんの仕事をいっしょにやるうとしていたその子がいた。今日こそは!と思い「手伝おうか?」と聞いてみた。その子は「うん。」「と答えた。仕事はすごく大変だったから、一人でやっつてる子にすごく感心した。終わった後に笑顔で「手伝てくたててありがとう。」「と言われた。その時、また一緒にやるうと思った。

【入選】

松田恭一（中学校三年生）

「やめて」必死にたすけを求めている。なのに誰もたすけしてくれない。周りの皆は、見て見ぬふり。そんな毎日があるA君。教室では笑聲。そして笑顔もない。そんな時一人の先生が来た。その先生は、あつてからずと笑顔がたえない先生だった。しかし、その現場を目撃した瞬間からは、笑顔が消えた。鬼のような目に変わったのだ。そこで先生は、二人だけを他の場所に行かせて、他のクラスの生徒全員に聞いた。「悲しんでいる人が目の前にいてどうしてたすけないんだ?」「ある生徒はしきりに言った。」「たすけたら自分もやられると思った。」「先生は「勇気を出して言わないと変わらない。」「二言いつた。翌日、教室に笑聲が響いた。一言で皆が笑顔になった。

複写禁止

12/4

「人権教育優秀校表彰式」

本センター設立20周年記念式典
(アールにて)



広見小
(上野哲則校長)

小学校と中学校の部
での標語・300字小説
の投稿数と入賞数の
最高得点から選考



中部中
(松岡秀明校長)

あるロンドンの時



「うるう年を考えた人たち」のこと

新しい年が始まりました。
一人一人の歴史は、誕生日がスタートとなります。

今年は、うるう年（別称…オリンピック・イヤー）で2月は、29日があります。
29日生まれの方は、4年に1度しか誕生日がきませんが…？ 民法は28日が過ぎた日としています。

（その1）日本で初めて暦を作った人Ⅱ 渋川春海について

江戸時代・徳川家綱の時、大和暦（やまとこよみ）＝貞享暦として幕府が採用。
地球の経度から、日本のこれまでの暦を補正したものを初めて作った。

全国を歩いて星の位置を確認しながら忍耐と高い計算能力で今まで約800年に2日の誤差があったものを修正したとされる。

（その2）現代の暦の基を作った人Ⅱ ユス・カエサル（ジュリアス・シーザー）について

あの「賽は投げられた」ルビコンを渡る「等で歴史に残る古代ローマ帝国の力エサルが太陽暦として制定した、地球の公転周期から導き出した。一年は365日と0.24222日（一日の約4分の1）なので4年に一度1日を増やしてスレの補正をしている。また昔ローマの一年の始まりは3月で、2月が終わりだったので、2月を補正しているのである。「ユリウス暦」と言われます。

現代では、セシウム原子時計での国際的な「協定世界時」で定めているが、地球の自転が必ずしも一定でないためさらに「うるう秒」により調整している。

ぬくもりまゆちゃん⑧

〈地球はなぜ回るの？〉

作：多々／画：miho



（本作品は、全て本職員でつくられています）



（本センターホームページ）

可児ぬくもりネット だより

（今週のビタミンから）

原発と人権について

【今週のビタミン】 投稿日：2011年10月26日 編

憲法では、人間は幸せに生活でき自由に楽しむ権利があるとある。（大要）

時の移ろい季節を感じるのも、誰でも平等である。どこに住むのも、景色を見るのも自由である。
今、多くの木々が紅葉となり一年の終焉を迎え、来年の栄華をためにかかるとその成熟した風景がここにある。

しかし、こうした普段当たり前の故郷の風景を見られない人がいる。

福島原発事故により避難された人たちが、普段と変わらない景色がそこにあるのに、それを見るのができないのだ。目には見えない放射能のためである。

景色を見る自由さえ侵して住む事を許さない原発は、明らかに人の人生を無にし生きる道を閉ざしてしまふ。この世では考えられない悪魔の産物ではない。多くの生きている権利を侵しているから憲法違反である。

一握りの科学者と利権との絡みの原発の偽善が暴かれた。それは、危機管理としての汚染処理が大昔にやることと同じ非科学的な方法しか手が無いことがこれを証明している。

さらに、究極的な燃えカスの処置の無害化もされていないことに有る。
「今良ければ、後は知らない」のでは、後世

いかばかりかである。

秋の句に「朝顔に つるべとられて もらい水」（加賀の千代女の句）がある。

「朝起きてみたら、汲みあげ井戸のつるべの縄に朝顔のつるが巻きついて、つるを切るのを忍びないので隣の家から水をもうけてきた」という句である。朝顔は、冬になる前に種を育もうとして綱にしみ込んだ水気を求めて必死に巻きついていったのである。

自然も人も名声や確たるものを得ようとするのは同じである。

後に起こる迷惑や災難すら、構わず目の前にある魅力につるを巻き付けていくものだ。原発の科学者達も朝顔と同じである。本能のまま動き勢いを付けていったのだ。「理があつても、義が無いのである」人は、何故この世に生を受けたのかの、人としての命のコントロールが効いていないのである。

人権という「人間らしく幸せに生きていくための権利」をだれ人もいかなる理由があろうが侵してはならないのである。

このことを科学者や企業人は命の奥底に無くてはならない。
「人の幸せを侵すものは、魔物であり、サタンである」との原爆禁止への先哲の叫びを心していくべきであらう。
私たちは、声を挙げて、騙されないことが自らの人権を守ることなのである。

後援企画

チャリティー講演会

- ・講師：石井ふく子氏（プロデューサー）
- ・演題：「出逢い、めぐり逢い」
- ・プロフィール：渡る世間は鬼ばかり等プロデューサー
- ・3月24日（土） 13:30から
- ・（市）文化創造センター
- ・入場料：1,500円
- ・（アールと市役所内喫茶店で発売）
- ・主催：「国際ソロプチミスト可児」
- ・問合せ：天野弘子会長まで（☎26-8080）

編集後記（響きのひかり）

「絆の字」で締めくくられた一年が終わった。人と人の絆は切れることはないのです。
人は、多様な考えがあつても、命に及ぶのを見て共に助け合う心が備わっていることが嬉しくなります。

中国の孟子は、「人は先天的にして善を持つ」とい性善説を唱えました。そして「天が人に大なる任を…」とい、志を苦しめ、その筋骨を疲れさせ、体を飢えさせ、その身を窮乏させる等の幾多の難を与え善の心を湧き出だすのだといふ。それにしても震災の代償は大き過ぎます。

こうした時にこそより一層の持続ある善の動きで助け合いたいもの。そのためには、差別や偏見などの自我を捨てたぬくもりある心が大事となります。

本年も、昇龍のごとく皆様と共に心豊かなまちを更に築いてまいります。（編集者：川手靖猛）